

非結核性抗酸菌と緑膿菌の慢性気道感染症に伴う 二次性アミロイドーシスの1例

中尾 明¹⁾ 石井 寛¹⁾ 大石 祐嗣^{1),2)}
温 麟太郎¹⁾ 串間 尚子¹⁾ 藤田 昌樹¹⁾
渡辺憲太郎¹⁾

¹⁾ 福岡大学医学部 呼吸器内科

²⁾ 長崎県対馬病院 内科

要旨：症例は51歳，女性．幼少期より気管支拡張症に伴う気道感染を繰り返しており，慢性気道感染症として経過観察されていた．2015年5月の胸部画像で両肺に粒状影，粘液栓，内部に液体貯留を伴う嚢胞状気管支拡張を認め，喀痰から非結核性抗酸菌と緑膿菌が複数回検出された．診断後より抗菌薬治療を開始したが，経過中に下痢，腹痛，食思不振と腎機能障害が進行し，消化管粘膜生検によりアミロイドーシスの診断となった．慢性気道感染症に続発したアミロイドーシスとして，全身管理と抗菌薬治療を継続したが，徐々に腎不全の悪化をきたし血液透析導入となった．慢性気道感染症患者が消化器症や蛋白尿など他臓器の症状を呈した場合は，全身性の二次性アミロイドーシスを念頭において精査を進める必要がある．

キーワード：アミロイドーシス，非結核性抗酸菌，慢性気道感染症，緑膿菌